

羽村市事業仕分け 議事録

実施日	平成 22 年 12 月 11 日（土曜日）
会 場	市役所 4 階会議室（第 2 会場）
事業名	2 - 5 フッ素イオン導入事業
出席者 （敬称略）	【コーディネーター】進邦徹夫 【仕分け人】双木達雄、塩田篤、伊藤保久、石川美紀
担当課	健康課
質疑応答	<p>（仕分け人）この事業は、年 2 回実施とあるが、毎回受けないと効果がないのか。</p> <p>（説明者）1 回受けたことで効果があるということではなく、定期的に受けないと効果がない。</p> <p>（仕分け人）シートに記載されている事業費と受けた児童数から単純に計算すると、一人当たりの事業費は約 960 円であるが、一般に歯科医院で行った場合の費用はどのくらいなのか。</p> <p>（説明者）市外の歯科医院であるが、インターネットで調べた限りでは、安いところで 2,000 円、高いところで、具体的な内容はわからないが 5,000 円程度である。</p> <p>（仕分け人）市が実施しているから安いということか。</p> <p>（説明者）歯科医と歯科衛生士のもと実施しているが、1 日当り 120 人程度の集団で効率的に行っているため経費が抑えられている。</p> <p>（仕分け人）実際には、対象者全員が受けているわけではなく、歯科医に行って有料でフッ化物による歯面塗布を利用している方もいるという現状をどう考えているか。</p> <p>（説明者）出来るだけ多くの方に受けていただきたい。子どもにとって虫歯を作らないということが大事である。なお、受けている子どもの割合は約 4 分の 1 である。</p> <p>（仕分け人）受ける人数を増やしたいということだが、人数が増えると費用も増えるのではないか。もしくは、その分単価が低く抑えられるのか。</p> <p>（説明者）人数が増えた場合、実施する期間が同じであれば人件費に増減はない。医薬材料の費用が増えるものである。</p> <p>（仕分け人）対象者は小学校 3 年生までであるが、3 年生となると歯もだいぶ生え揃っているのではないか。小学校で健診を実施しているのであれば、未就学児に特化したほうが良いのではないか。どのような理由から 3 年生までとしたのか。</p> <p>（説明者）3 年生を対象とした理由は、永久歯が生え始める時期というところで考えている。小学校 3 年生を基準とした虫歯にどれくらいかかっているかという統計があるが、平成 7 年度は 93.1%、平成 22 年度は 65.9%と</p>

下がっていることから、イオン導入の効果がみられているのではないかと考える。

(仕分け人) フッ素イオンを導入する時期は、早ければ早いほど良いと思うがどう考えているか。

(説明者) フッ素イオンの導入は、永久歯に生え変わる時期が効果的である。生え変わる時期には個人差があるので、その間に受けてもらうのが大事と考える。

(仕分け人) そうであれば、対象年齢は3年生以降でもよいのではないか。

(説明者) 乳歯も虫歯になりやすく、また、永久歯も非常に虫歯になりやすいことから、永久歯に生え変わるという時期をひとつのポイントとして対象年齢を定めている。

(仕分け人) 実際にフッ素イオンを導入する年齢の分布はどうであるのか。

(説明者) 平成21年3月の統計では、保育園児304人、未就園児が66人、幼稚園児が276人、小学生157人となっている。

(仕分け人) 学校での健診ではフッ素イオンの導入は実施していないのか。

(説明者) 実施していない。

(仕分け人) 永久歯の生え変わりの時が大事であるとの説明であったが、乳歯の時に受けたからといって、その後は受けていないという事例はないのか。

(説明者) フッ素イオンの導入だけでは虫歯は防げないという認識は持っている。日々のブラッシングや食習慣が大事であるということを保護者に説明するとともに、その際にはフッ素イオンの必要性についても説明している。

(仕分け人) この事業は、どこでどのような方が実施しているのか。

(説明者) 保育園や学校などと日程の調整をとって、歯科医が保健センターで実施している。

(仕分け人) 歯科医も決まっているということか。

(説明者) 歯科医は事前に決まっている。

(仕分け人) 事故が起きたことはないのか。

(説明者) 歯科医や歯科衛生士の管理のもと行っているので事故はない。

(仕分け人) 同じ子どもが繰り返し何度も受けているということはないのか。

(説明者) 受けている子どもはいる。受けたい方は、毎年2回計14回受けることが可能である。

(仕分け人) 評価シートに記載された児童数とは、子どもの実数ではなく、累計ということか。

(説明者) そのとおりである。

(仕分け人) フッ素イオンの導入というのは、虫歯を予防するための一番良い方法なのか。

(説明者) 虫歯予防としては、フッ素が主流となっている。方法はいくつか考えられるが、市ではイオン導入法を実施している。

(仕分け人) 現在では歯科医の数は充実していると思う。この事業は、これまで35年ぐらい経過しており、すでに市は目的を達成したと考えてはいないか。

(説明者) 虫歯率については確実に下がっているが、虫歯のある子どもはまだ一定数いることから、今後も継続していくことが必要であるとする。

(仕分け人) 他市で実施しているところはあるか。

(説明者) 26市中、未実施は7市で、他の19市はなんらかの方法で実施している。

(仕分け人) どの自治体も無料で実施しているのか。無料で実施する根拠はあるのか。

(説明者) 6市が有料で実施しており、13市が無料である。金額は480円、640円、綿球法と思われるものが1本あたり100円である。無料とすることによって、より多く子どもたちに受けていただくという視点である。

(仕分け人) 東京都からの援助はないのか。

(説明者) 東京都の包括補助金を充当しているが、直接の補助制度はない。

(仕分け人) 歯科衛生士だけではフッ素イオンの導入はできないのか。

(説明者) 歯科医師には口の中の衛生状態を見てもらう。実際の処置は歯科衛生士が行っている。

(仕分け人) 歯科衛生士では口の中の衛生状態を見ることはできないのか。可能であるならば、歯科医分の人件費の削減につながる。

(説明者) この事業の実施にあたっては、歯科医師会の全面的な協力を得ていることから確認してみたいとする。

(仕分け人) あらためて確認するが、この事業は長い間実施してきており、目標を達成しているとの考えはないか。

(説明者) 健康はむら21という市の健康増進計画では、虫歯率を下げることを目標としている。また、国では虫歯のない幼児の割合を80%以上と一つの目標として掲げている。それに向けて継続していくことが必要であるとする。

(仕分け人) 今年度の実施状況では、目標を達成しているのか。

(説明者) 9月に実施した結果は807人である。次回は来年3月となるが、引き続きPRに努めていき、多くのお子さんに受けていただきたいと考えている。

<p>判 定</p>	<p>市が実施 より一層の充実を図りつつ、市が実施すべきである。</p> <p>【市が実施（現状維持又は充実）5人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80～90%の子どもが受けられるよう受診率を上げる取り組みが必要である。 ・対象者全員が受けられる方策を検討してほしい。 ・受益者負担とすることで保護者に対する虫歯予防の動機付けに繋げることが重要である。 ・虫歯予防という本来の目的を理解してもらう。 ・ブラッシングによる虫歯予防をもっと強化すべきである。 ・ある程度の受益者負担を導入すべきである。 ・虫歯になってしまった子どもへのケアについて、ブラッシングを含めた指導を検討してほしい。
-------------------	--